

漫画界のレジェンド 松本零士展

会 期	平成 30 年 10 月 27 日(土)~12 月 24 日(月・祝)
開催日数	52 日間
会 場	本館 1 階展示室
主 催	TKU テレビ熊本、熊本県立美術館(名義共催)
後 援	熊本県、熊本市、熊本県教育委員会、 熊本市教育委員会
協 力	零時社、アートスペース、青幻舎プロモーション
観 覧 料	一般・大学生:1,200(1,000)円 中学・高校生 800(700)円 小学生 500(400)円 未就学児無料 ()内は前売・団体 20 名以上の料金
観覧者数	8,024 名
担 当 者	才藤あずさ



趣旨とその成果

SF 漫画界の巨匠、松本零士(1938~)は、テクノロジーが進化した未来の世界を舞台に、壮大なファンタジーを描き続けている。漫画「宇宙戦艦ヤマト」「宇宙海賊キャプテンハーロック」「銀河鉄道999」など数多くの名作を発表するとともに、アニメ制作にも携わり、1970年代半ばから80年代にかけてアニメブームを巻き起こした。本展では、15歳でのデビュー以来、60年以上にわたる松本零士の創作の歩みを紹介。直筆の漫画原画をはじめ、執筆用の各種資料、アニメのセル画、立体模型などを通して、夢とロマンにあふれた松本零士の世界をご覧いただいた。

関連行事

- ① 10月28日(日)松本零士氏サイン会・講演会
講 師:松本零士氏
参加者:100名
- ② 12月8日(土)松本零士展コンサート
演奏者:熊本市消防音楽隊
参加者:200名以上

第Ⅳ期 細川コレクション 〈特集〉 没後 150 年記念

横井小楠とその時代 〈常設〉 細川家の名刀と肥後鐔の美

会 期	平成 31 年 1 月 8 日(火)~3 月 24 日(日)
開催日数	66 日間
会 場	別棟常設展示室、本館 2 階展示室(第 1 室)
主 催	熊本県立美術館、熊本日新聞社、RKK 熊本放送
協 賛	高橋酒造株式会社
特別協力	横井小楠記念館、公益財団法人永青文庫、 福井県立図書館、福井県立歴史博物館、 福井市立郷土歴史博物館、山中湖村教育委員会・ 山中湖文学の森 徳富蘇峰館
協 力	肥後銀行
観 覧 料	共通券:一般 420(300)円 大学生 250(190)円 別棟:一般 210(160)円 大学生 130(100)円 本館 2 階:一般 270(190)円 大学生 160(120)円 高校生以下無料 ()内は団体 20 名以上の料金
観覧者数	7,659 名(本館 2 階:5,106 名 別棟:2,553 名)
担 当 者	宮川聖子(本館 2 階 1 室)、才藤あずさ(別棟)



趣旨とその成果

熊本出身にして、幕末日本を代表する儒者であり、経世家である横井小楠を顕彰する展覧会であった。小楠は、江戸から明治へと激動する時代のうねりのなかで、近代国家建設に奔走するも、志半ばで暗殺されてしまう。しかし、小楠の死後、その思想は後進に引き継がれ、現代につながる明治国家の基礎となったといえるだろう。

小楠の生涯のうち、もっとも活躍した場は越前福井藩であり、その出会いは嘉永 2 年(1849)の三寺三作の来熊にはじまり、安政 5 年(1858)には同藩に招聘され、文久 3 年(1863)まで政治顧問として活躍した。その間、政事総裁職となった福井藩主・松平春嶽のもと、そのブレーンとして尽力し、幕政改革にも関係している。春嶽と小楠は、幕府のこれまでの「私」の政治に対し、「公」の政治を確立することを目指した。

本展は、平成 31 年に小楠が没後 150 年を迎えることを記念して、福井藩での活躍を中心に、その事績を紹介した。そのため、福井県立図書館・福井県立歴史博物館・福井市立郷土歴史博物館から特別協力を賜り、小楠ゆかりの史資料を福井県内より大規模にお借りすることができた。また、小楠の子孫の家に伝来した史資料は熊本・京都・福井の 3 カ所に分かれて保管されており、それらを一堂に集めるという試みも行った。加えて、最新の研究成果を踏まえ、これまでほとんど知られていなかった小楠の新出書簡等を展示した。

最終的に、開催時期が冬季であったが5,106名の方にご観覧いただき、図録の売り上げも好調であった。本展の開催により、郷土の偉人・横井小楠への関心が少しでも高まれば、幸いに思う。

また、常設では「細川家の名刀と肥後鐔の美」を開催。重要文化財《太刀 銘 守家造》(※展示期間:1/12～2/11)をはじめとした永青文庫所蔵の名刀や、かつて細川家に伝来した刀剣のほか、「延寿派」、「同田貫」といった肥後刀工たちが鍛えた刀剣、肥後拵を飾る「肥後鐔」などを紹介した。

関連行事

- ① 1月12日(土)特別講演会
演 題:横井小楠と維新変革
講 師:大阪大学名誉教授 猪飼隆明氏
聴講者:196名

- ② 2月23日(土)ミュージアムセミナー
演 題:横井小楠とその時代
講 師:主任学芸員 宮川聖子
聴講者:113名

第Ⅳ期 美術館コレクション 〈企画〉 福武コレクション 西へ東へ。藤田嗣治と国吉康雄

会 期	平成 31 年 1 月 8 日(火)~3 月 24 日(日)
開催日数	66 日間
会 場	本館 2 階展示室(第 3 室)
主 催	熊本県立美術館、公益財団法人福武財団
特別協力	宇城市不知火美術館
協 力	研精堂印刷株式会社、ヤマトグローバルロジスティク スジャパン株式会社
観 覧 料	共通券:一般 420(300)円 大学生 250(190)円 本館 2 階:一般 270(190)円 大学生 160(120)円 高校生以下無料 ()内は団体 20 名以上の料金
観覧者数	本館 2 階:5,106 名(本館 2 階 3 室)
担 当 者	岡田真梨子



趣旨とその成果

1920年代にそれぞれパリとニューヨークで活躍した日本人画家、藤田嗣治と国吉康雄の作品を、一般財団法人福武財団の協力のもと展示した。フランスとアメリカ、そして日本の美術を繋いだ、ルノワールやナビ派、エコール・ド・パリ、藤田、国吉らの足取りをたどる。20世紀美術の潮流を追うと同時に、藤田と国吉が美術の歴史上果たした役割の大きさを、戦争と美術の関わりも踏まえて展観した。

関連行事

- ① 1月8日(火)ギャラリーツアー
講 師:岡山大学准教授 才士真司氏、学芸員 岡田真梨子
聴講者:15名
- ② 2月23日(土)ギャラリーツアー
講 師:岡山大学准教授 才士真司氏、学芸員 岡田真梨子
聴講者:15名

③ 2月24日(日)ドキュメンタリー上映会&鼎談

演題:文化芸術資源による地域交流の可能性

講師:岡山大学准教授 才士真司氏、不知火美術館学芸員 浦田恭代氏、学芸課参事
林田龍太

聴講者:45名

④ 3月10日(日)鼎談

演題:藤田と国吉・その絵画技法からみるふたりの生きた時代

講師:岡山大学准教授 才士真司氏、絵画保存修復家 岩井久子氏、学芸員 岡田真梨子

聴講者:23名

第Ⅳ期 美術館コレクション 〈特集〉 祝いと吉祥の美術

会 期	平成 31 年 1 月 8 日(火)～3 月 24 日(日)
開催日数	66 日間
会 場	本館 2 階展示室(第 2 室)
主 催	熊本県立美術館
観 覧 料	共通券:一般 420(300)円 大学生 250(190)円 本館 2 階:一般 270(190)円 大学生 160(120)円 高校生以下無料 ()内は団体 20 名以上の料金
観覧者数	本館 2 階:5,106 名(本館 2 階 2 室)
担 当 者	山田貴司



趣旨とその成果

平成 31 年のお正月は、平成最後のお正月。この記念すべき新年を迎えるにあたり、新春の美術館コレクション特集では、めでたづくしの展示「祝いと吉祥の美術」を企画した。むかしから人々は美しい花や鳥、神々しい山野の風景に吉祥の意味を見出し、その図柄をモチーフとする縁起ものを飾ったり、幸福を呼び込む神さまを描き込んだ絵画や工芸品を愛でることで、新春を祝い、幸福を願ってきた。会場には、幸福を呼び込む七福神を描いた絵画や、めでたい兆しの象徴である松竹梅や鶴亀の文様、富士山などをデザインした絵画や工芸品を展示。新春にふさわしく、縁起ものが醸し出す華やかでめでたい世界を満喫いただいた。

関連行事

1 月 26 日(土)ミュージアムセミナー

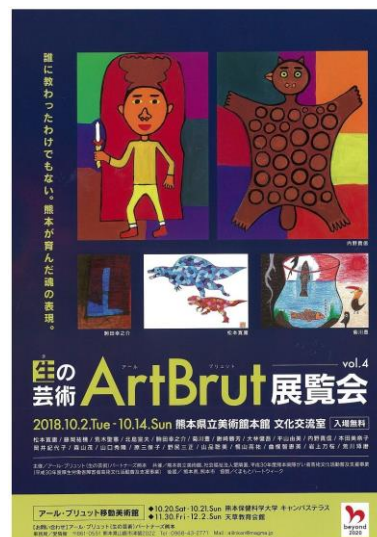
演 題: 仏像の銘文が教えてくれるもの

講 師: 学芸課長 有木芳隆

聴講者: 28 名

平成30年度 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.4

会 期 平成 30 年 10 月 2 日(火)～10月 14 日(日)
会 場 本館講堂
主 催 アール・ブリュット(生の芸術)パートナーズ熊本
共 催 熊本県立美術館、社会福祉法人愛隣園
入館者数 2,056 人
担 当 者 石丸美穂子、岡田真梨子



趣旨とその効果

本展は、「誰に教わったわけでもない。熊本が育んだ魂の表現」をテーマに、障がいのある人たちの個性あふれる作品群を紹介。国内外で高い評価を受けている作家から初出展作家まで、熊本県在住の作家の作品が展示された。また、当館が所蔵するジャン・デュビュッフエ(「Art Brut (生の芸術)」の提唱者)の版画作品をパネル展示で紹介した。作家にとって県立美術館での展示は、作品を通じた交流の場であり、認められる喜びが創作意欲や自立へとつながっている。



平成 30 年度スクールミュージアム

主 催 熊本県立美術館
 展 示 物 浜田知明の作品(銅版画、原板)
 観 覧 者 11 校 合計 3,352 名
 担 当 者 石丸 美穂子、岡田 真梨子



趣旨とその成果

平成 18 年(2006)より、教育普及活動として本館収蔵作品を学校へ持ち込み、学校を美術館にする「スクールミュージアム」を開催している。美術作品を鑑賞することで、子どもたちの芸術、文化を愛好する心情を育てるとともに、学校の協力により、保護者、地域の方々にも広く本館収蔵品を知ってもらう機会としている。例年4月に県内の学校に実施校の募集をし、希望のあった学校から 10 校程度を選出。10 月から 12 月の期間に各校1日で開催している。具体的な内容については事前に開催校に赴いて担当者と協議し、鑑賞における要望等、実施計画を組み立てた。展示作品は、熊本ゆかりの版画家・彫刻家として知られる浜田知明の版画作品 20 点と原版 2 点、マルク・シャガールの版画集『サーカス』から 16 点をピックアップし、この中から学校側の希望により 18～34 点を展示した。今年度も文化祭での展示、鑑賞授業や図工・美術以外の他教科での授業、小中連携など実施形態は様々で、当館職員はギャラリートークや、学校職員と協力して鑑賞授業を行った。

実施校

実施日	実施校	児童・生徒 参加者数	保護者等 参加者数	合計
10 月 14 日(日)	くまもと清陵高等学校	50	35	85
10 月 15 日(月)	大津町立護川小学校	185	49	234
10 月 16 日(火)	玉名市立大野小学校	192	56	248
10 月 30 日(火)	芦北町立田浦中学校	119	21	140
11 月 8 日(木)	水俣市立湯出小学校	26	39	65
11 月 11 日(日)	人吉市立第一中学校	407	1,074	1,481
11 月 13 日(火)	阿蘇市立阿蘇西小学校	138	24	162
11 月 19 日(月)	熊本県立芦北支援学校	61	40	101
11 月 22 日(木)	水俣市立水俣第二小学校	382	147	529
12 月 5 日(水)	あさぎり町立深田小学校	83	21	104
12 月 15 日(土)	熊本県立小川工業高等学校	30	173	203
総計	11 校	1,673	1,679	3,352

浜田知明版画室 平成 30(2019)年度

概要

熊本市在住の版画家・彫刻家、浜田知明の版画作品約 10 点を入替ながら展示し、その作品と関連がある彫刻作品を毎回 1、2 点紹介している。本年度は浜田知明が白寿を迎えた記念として、第 1 期(4/27~7/15)は「原点 The Origin」と題し、旧制御船中学から東京美術学校在学中の作品、そして従軍期のスケッチ類を展示した。その後もテーマを設けた展示を展開する予定であったが、第 1 期の閉会直後の 7 月 17 日に浜田が逝去したことを受け、第 2 期



以降は「追悼・浜田知明展」と題し、彼の画業を辿る内容とした。追悼展第 1 期(8/4~9/24: 浜田知明版画室としては第 2 期)のテーマは「初年兵哀歌」。画家の代表作ともいえる銅版画シリーズ全 16 点を一挙に展示した。追悼展第 2 期(10/6~12/16)では戦争を主題としながらも、「初年兵哀歌」と名付けられなかった作品を紹介する展示を「名づけられざるもの」と題して開催。最後となる第 3 期(1/8~3/24)には、「その後の浜田知明」と題し、〈初年兵哀歌〉を集中的に制作した 1950 年代半ば以後の代表作を展示した。とりわけ追悼展第 1 期には、多くの方々が来館された。

会 場 熊本県立美術館本館 2 階浜田知明版画室
担 当 者 林田龍太

会 期・出品作品リスト

□第 1 期:〈原点—The Origin—〉(4 月 27 日~7 月 15 日)

◇デッサン・スケッチ:《石膏デッサン(モリエール像)》昭和 9 年(1934)、《石膏デッサン(ヘルメス像)》昭和 9 年(1934)、《裸婦スケッチ》昭和 11 年(1936)、《《聖馬》のためのスケッチ(鎖)》昭和 13 年(1938)、《《聖馬》のためのスケッチ(鎖と人物)》昭和 13 年(1938)、《戦地でのスケッチ(臨晋にて 4 月 23 日)》昭和 16 年(1941)、《戦地でのスケッチ(中原会戦—関家溝にて 6 月)》昭和 16 年(1941)

◇版画:《聖馬》昭和 13 年(1938)

◇油彩画:《裸婦(未完)》昭和 12 年(1937)

◇資料:佐田勝、杉原正巳、浜田知明編『川西治男画集』昭和 13 年(1938)

□第2期：追悼展第Ⅰ期〈初年兵哀歌〉（8月4日～9月24日）

- ◇版画：《初年兵哀歌（芋虫の兵隊）》昭和25年（1950）、《初年兵哀歌（銃架のかげ）》昭和26年（1951）、《初年兵哀歌（便所の伝説）》昭和26年（1951）、《初年兵哀歌（戦いのあと）》昭和26年（1951）、《初年兵哀歌（歩哨）》昭和26年（1951）、《初年兵哀歌（歩哨）》昭和26年（1951）《初年兵哀歌（ぐにゃぐにゃとした太陽がのぼる）》昭和27年（1952）、《初年兵哀歌（風景）》昭和27年（1952）、《初年兵哀歌》昭和27年（1952）、《初年兵哀歌》昭和28年（1953）、《初年兵哀歌（山を行く砲兵隊）》昭和28年（1953）、《初年兵哀歌（陣地）》昭和28年（1953）、《初年兵哀歌（歩哨）》昭和29年（1954）、《初年兵哀歌—風景（一隅）》昭和29年（1954）、《初年兵哀歌（廟）》昭和29年（1954）、《初年兵哀歌（檻）》昭和53年（1978）

□第3期：追悼展第Ⅱ期〈名づけられざるもの〉（10月6日～12月16日）

- ◇版画：《風景》昭和26年（1951）、《人》昭和26年（1951）、《風景》昭和27年（1952）、《中国の門》昭和27年（1952）、《假標》昭和29年（1954）、《高足踊り》昭和29年（1954）、《黄土地帯（A）》昭和29年（1954）、《黄土地帯（B）》昭和29年（1954）、
- ◇ペン画・スケッチ：《忘れ得ぬ顔 B》平成20年（2008）、《夜行軍、雨》平成20年（2008）、《夜行軍、山を
行く砲兵隊》平成20年（2008）、《山を行く砲兵隊》平成25年（2013）、
- ◇彫刻：《腐っていく兵士》平成26年（2014）

□第4期：追悼展第Ⅲ期〈その後の浜田知明〉（1月8日～3月24日）

- ◇版画：《よみがえる亡霊》昭和31年（1956）、《副校長D氏像》昭和31年（1956）、《群盲》昭和40年（1960）、《噂》昭和41年（1966）、《飛翔》昭和33年（1958）、《愛の歌》昭和32年（1957）、《月夜》昭和52年（1977）、《アレレ…》昭和49年（1974）、《いらいら(A)》昭和49年（1974）、《せかせか》昭和50年（1975）、《ボタン(A)》昭和63年（1988）、《ボタン(B)》昭和63年（1988）
- ◇彫刻：《アレレ…》平成元年（1989）

■装飾古墳室

〈常設展示室〉

装飾古墳は全国で約 700 基確認されているが(平成 30 年現在)、大多数が九州の北・中部に残っており、県内には約 200 基が存在する。当館の装飾古墳室では、熊本県の代表的な装飾古墳を実物とレプリカで再現し、考古学ファンや児童生徒、一般来館者に楽しんでいただいている。

装飾古墳の特徴は、その装飾性にある。直弧文・円文・三角文等の幾何学文様と、武器・武具、人や動物、船や家などの具象形の文様が、彩色されたり彫刻されたりして墳墓や横穴を飾っている。赤・青・白などの単純で強烈な色彩や、素朴で躍動的な造型性は、われわれの心を揺り動かす。

しかし、装飾古墳は、崩壊の一途をたどっているのが現実である。当美術館は公開と保存という矛盾の中から解決を探る試みとして、精巧なレプリカや模刻・模写という方法で地元の偉大な文化遺産を写しとった。

平成 28 年 4 月の「熊本地震」によって古墳室内の展示ケース等が破損したため一部区画を閉鎖していたが、平成 29 年度「本館機能強化工事」によって全国の装飾古墳情報(文字情報と画像)を検索できる端末(2 台)を設置する情報スペースとした。



〈レプリカ・模刻〉

No	名称	出土地名	指定
1	大村横穴	人吉市城本町	国指定史跡
2	千金甲古墳(1号)	熊本市西区小島下町	〃
3	井寺古墳	上益城郡嘉島町	〃
4	鍋田横穴	山鹿市大字鍋田	〃
5	弁慶ヶ穴古墳	山鹿市熊入町	〃
6	チブサン古墳	山鹿市大字城字西福寺	〃

〈石材・石人等〉

No	名称	出土地名	所蔵(保管)者名
1	広浦古墳石棺石材	上天草市大矢野町	県立済々黌高等学校
2	鴨籠古墳石棺	宇城市不知火町	熊本大学
3	臼塚古墳石人	山鹿市大字石	県立鹿本商工高等学校
4	姫ノ城古墳出土翳・蓋・靱	八代郡氷川町	氷川町教育委員会

■教育普及

□各種講座等

子ども美術館活動

回	期日	テーマ	講師	参加者数
1	5月27日(日)	レオナール・フジタってどんな人?	石丸美穂子(参事)、岡田真梨子(学芸員)、わーくしょっぷの会、子ども美術館ボランティア	9名
2	6月17日(日)	やってみよう染めもの体験	石丸美穂子(参事)、才藤あずさ(主任学芸員)、わーくしょっぷの会、子ども美術館ボランティア	39名
3	7月29日(日)	バックヤード探検～準備中の展示室ものぞいちゃおう～	石丸美穂子(参事)、才藤あずさ(主任学芸員)、わーくしょっぷの会、子ども美術館ボランティア	35名
4	8月11日(土)	ガラシャとロザリオ～ロザリオづくり体験～	大久保須美子(内坪井修道院)、石丸美穂子(参事)、山田貴司(参事)、わーくしょっぷの会、子ども美術館ボランティア	91名
5	10月21日(日)	気になる素材で作ってみよう!	石丸美穂子(参事)、林田龍太(主任学芸員)、わーくしょっぷの会、子ども美術館ボランティア	38名
				計 212名

出張授業及び研修等

	期日	内容	担当者	場所	
出張講座等	1	4月7日(土)～11日(水)	「佐々木耕成展」作品調査	林田龍太	長野県、東京都他
	2	5月9日(水)～11日(金)	九州博物館協議会	田崎龍一	沖縄県立美術館
	3	5月11日(金)	熊本市源空寺仏像調査	有木芳隆 萬納恵介	源空寺(熊本市)
	4	5月18日(金)	文化財レスキュー	有木芳隆 萬納恵介	宇土市内個人宅
	5	5月27日(日)～31日(木)	「佐々木耕成展」作品調査	林田龍太	佐々木耕成アトリエ(群馬県)
	6	5月29日(火)～31日(木)	「横井小楠とその時代」展作品調査	宮川聖子 林田龍太	山梨県、神奈川県
	7	6月12日(火) 13日(水)	「細川ガラシャ」展作品調査	宮川聖子	国立国会図書館(東京都)

8	6月17日(日) ～19日(火)	永青文庫石仏・金銅仏調査	萬納恵介	永青文庫(東京都)
9	6月19日(火) ～23日(土)	「横井小楠とその時代」展、「勇姫」 展作品調査	宮川聖子	福井市立郷土歴史博物館、福井県立図書館
10	6月25日(月) ～28日(木)	「佐々木耕成」展作品借用	林田龍太	個人宅(群馬県)、アーツ千代田、他
11	6月27日(水)	奥球磨セミナー講演	有木芳隆	多良木町
12	7月3日(火)	日本博物館協会参与会	田崎龍一	東京都黒田記念館
13	7月9日(月) ～13日(金)	「細川ガラシャ展」作品借用	山田貴司 才藤あずさ 萬納恵介	永青文庫、東京大学史料編纂所、他
14	7月17日(火)	美術館連絡協議会企画会議 平成31年度美術館コレクション I 出品交渉	林田龍太 岡田真梨子	千葉市美術館、町田市立国際版画美術館
15	7月18日(水) ～26日(土)	「細川ガラシャ展」作品借用	山田貴司 才藤あずさ 宮川聖子	大阪城天守閣、奈良女子大学、他
16	8月17日(金)	教員のための博物館の日 in 熊本	石丸美穂子	熊本県博物館ネットワークセンター
17	8月23日(木)	八代市立博物館協議会	田崎龍一	八代市立博物館
18	9月4日(火)	文化財レスキュー資料整理	有木芳隆 萬納恵介	益城町
19	9月20日(木) 21日(金)	「佐々木耕成」展作品借用	林田龍太	東京国立近代美術館、東京都現代美術館、他
20	9月27日(木)	「細川ガラシャ」展作品返却	宮川聖子	九州国立博物館、立花家史料館、他
21	9月28日(金) ～10月4日(木)	「細川ガラシャ」展作品返却及び 「武蔵、熊本にきたる」展作品借用	山田貴司、 才藤あずさ	岡山県立美術館、永青文庫、他
22	10月2日(火)	「細川ガラシャ」展作品返却及び 「武蔵、熊本にきたる」展作品借用	有木芳隆	福岡市博物館、北九州市立いのちのたび博物館
23	10月9日(火) ～12日(金)	「細川ガラシャ」展作品返却	山田貴司	奈良女子大学、南禅寺天寿庵、他
24	10月12日(金) ～14日(日)	仏像調査指導	有木芳隆 萬納恵介	高千穂町内堂宇(宮崎県)
25	10月26日(金) 27日(土)	平成31年度展覧会に係る作品調査	山田貴司 萬納恵介	東京大学史料編纂所、慶応義塾図書館
26	10月28日(日)	明治維新150年を考えるシンポジウム Vol.4	宮川聖子	響のホール(福井市)

	27	11月9日(金)	熊本県点訳音訳友の会研修会講演	才藤あずさ	熊本県点字図書館
	28	11月13日(火) 14日(水)	第Ⅳ期コレクション展に係る作品調査	岡田真梨子	岡山県立美術館、岡山大学
	29	11月16日(金) 17日(土)	「熊本城と武の世界」展出品交渉	才藤あずさ	刀剣博物館、名古屋市博物館
	30	11月21日(水) 22日(木)	文化財レスキュー資料整理	有木芳隆 萬納恵介	熊本県博物館ネットワークセンター
	31	11月27日(火) ～30日(金)	平成31年度展覧会に係る作品調査	山田貴司	福岡大学、山口県文書館、東京大学、他
	32	11月30日(金)	第61回熊本県図画工作・美術教育研究大会(熊本市大会)	石丸美穂子	熊本県立美術館
	33	12月16日(日)	平成31年度展覧会に係る打ち合わせ及び作品調査	岡田真梨子	町田市立国際版画美術館
	34	12月18日(火) ～23日(日)	第Ⅲ期コレクション展作品返却及び、第Ⅳ期コレクション展借用	有木芳隆 山田貴司 林田龍太 宮川聖子	岡山県立美術館、永青文庫、他
	35	12月27日(木)	第Ⅲ期コレクション展作品返却	山田貴司	北九州市立いのちのたび博物館
	36	1月9日(水) 10日(木)	永青文庫所蔵資料調査打ち合わせ、文化庁ヒアリング	才藤あずさ	永青文庫、文化庁(東京都)
	37	1月20日(日)	小楠没後150年(生誕210年)顕彰企画講演会	宮川聖子	秋津公民館(熊本市)
研修	1	9月10日(月) ～14日(金)	文化庁展示取扱いセミナー	才藤あずさ	京都国立博物館

□ミュージアムセミナー

～熊本県立美術館 美術鑑賞講座～

回	期日	テーマ	講師	参加者数
1	5月26日(土)	フジタとパリの画家たち	学芸員 岡田 真梨子	42名
2	6月9日(土)	武家の装い	主任学芸員 才藤 あずさ	44名
3	6月23日(土)	ガラシャイメージの形成と展開	学芸課参事 山田 貴司	87名
4	10月20日(土)	前衛美術とアニメーション	学芸課参事 林田 龍太	29名
5	11月24日(土)	熊本中世の仏像	学芸員 萬納 恵介	33名
6	2月23日(土)	横井小楠とその時代	主任学芸員 宮川 聖子	113名
				合計348名

□実技講座

期日	講座内容	講師	参加者数
11月7日(水)～9日(金) 11月14日(水)～16日(金)	細川コレクション関連講座 「日本画講座」 日本画[模写]制作体験+展覧会鑑賞	日本画家 浮島館主宰 大塚浩平氏	10名
※「日本画」講座は講師の希望により受講者を少人数で設定している。			

□学芸員資格取得課程実習(博物館実習)

8月23日(木) ～29日(水)	熊本大学・久留米大学に在籍する 大学生	8名	本館 会議室等	宮川聖子 (学芸課主任学芸員) 他学芸課職員
---------------------	------------------------	----	------------	------------------------------

□講演会

期日	テーマ	講師	参加者
8月25日(土)	イエズス会史料からみた細川ガラシャ	青山学院大学准教授 安 廷苑 氏	176名
9月8日(土)	新・明智光秀論	熊本大学永青文庫研究センター 教授 稲葉 継陽 氏	351名
1月12日(土)	横井小楠と維新変革	大阪大学名誉教授 猪飼 隆明 氏	196名

□平成 30 年度熊本県立美術館ボランティアの活動

■美術館サポートボランティア

当館のボランティア活動については、平成 4 年に美術館友の会を母体としてスタートし、平成 5 年以降は「熊本県立美術館ボランティア会」として、美術館の作業サポートや子ども美術館のワークショップ、コレクションガイドなどの活動を続けてきた。

平成 25 年度からは、美術館が運営するものとし、名称を「美術館サポートボランティア」と改め、新体制で活動を再スタートしている。

平成 30 年度は 51 名が登録し、以下の基本方針のもと、各グループに分かれて活動した。

◆美術館サポートボランティアは美術館の日々の活動を支えることを目的とする。そのために、次の活動を行う。

- 美術館運営のための支援(作業・広報)活動。
- ワークショップ活動(教育普及)の支援活動。

■活動内容について

(1)各グループでの活動(4 グループのいずれかに所属し活動する)

① 図書グループ

毎週火曜日に活動し、展覧会図録や美術図書の整理を行った。

② 資料グループ

月 2 回水曜日に活動し、新聞記事の切り抜き、資料の分類・整理を行った。

③ ポスターグループ

第 2 月曜日、第 4 木曜日に活動し、展覧会ポスター・チラシの掲示・整理、発送作業を行った。

④ 子ども美術館グループ

年に 4 回、前日の活動を合わせると 8 回活動し、子ども美術館でスタッフの一員として、教材づくりや子ども達の支援を行った。

(2)その他の活動(希望者による活動)

① 障がい者支援

【障がいのある方々の鑑賞デー】

平成30年度は、5月21日(月)、9月3日(月)、11月19日(月)の3回開催。午前・午後の交代制で多数のボランティア会員にご協力をいただき、館内案内、展覧会案内、車椅子の移動支援など、障がいのある方々への支援に取り組んだ。

② 熊本オペラ芸術協会 細川ガラシャ展・記念コンサート

～オペラ「細川ガラシャ」(出田敬三 作曲)公演(ハイライト)～
ボランティアの希望を募って実施、会場整理等を行った。

③ 美術館研修会(サポートボランティアを対象に行う)

美術館のミュージアムセミナー、講演会に参加した。毎回 20 人程度が参加している。

④ 自主学習会

意欲のある人たちが集まって以前からの学習会を自主的に継続している。